

宮崎市恒久児童館及び西原児童センター

指定管理者事業概要書

1. 施設運営に対する基本的な考え方

当社は、宮崎市が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に貢献するため、恒久児童館及び西原児童センターを、既存の児童館活動をさらに豊かにする「遊び×学び×交流のイノベーション拠点」として運営します。

基本方針や事業計画の内容の一部は、宮崎市本郷児童館外1館の事業計画書と同様です。

2. 施設の設置目的と課題認識、具体的な解決策

両施設の地域特性を深く理解し、それぞれの課題に応じた解決策を講じます。

- 恒久児童館：伝統を未来へつなぐ多世代交流の拠点
 - 課題認識：宮崎市で最初に設置された歴史ある施設ですが、老朽化や利用人数の微減といった課題を抱えています。また、道幅が狭く、駐車場の出入りがしにくいという来館時の安全面も課題です。
 - 解決策：歴史を尊重し、地域住民と連携した「昔の遊びカフェ」など、多世代交流を促進します。来館時の安全確保のため、交通安全に関する情報を積極的に発信し、地域見守り活動にも参加します。
- 西原児童センター：地域の福祉資源と連携した包括的支援の拠点
 - 課題認識：南部老人センターや身体障害者体育センターなど、福祉施設が隣接するという立地特性を最大限に活かしていない可能性があります。
 - 解決策：隣接施設と積極的に連携し、障がいのあるこどもたちも共に楽しめるインクルーシブなプログラムを企画・実施します。

3. 利用者サービスの向上と施設利用促進

(1) 利用者サービス向上のための具体的取り組み 遊びや学びのプログラムに加え、デジタル技術を活用した利便性と安心を提供します。

- 情報発信の強化：ホームページとSNSをリニューアルし、施設の魅力を視覚的に伝えます。
- 安心の提供：独自開発システム**「りんくる」**を導入し、保護者が使い慣れたLINE上でこどもの来降所情報を受け取れるシステムを導入します。
- 専門家によるオンライン子育て相談：弊社本社に在籍する看護師や臨床心理士が、オンライン(無料)で個別の育児相談に対応し、専門的なサポートを提供します。

(2) 施設利用を促進するための方策

- 新たな体験プログラムの展開: 地域連携により、こどもたちの好奇心や探究心を刺激する多様な体験プログラムを定期的を開催します。
- 「こどもスタッフ」制度の導入: こどもたち自身がイベントの企画・準備に携わることで、当事者意識を高め、口コミでの利用増加を促します。

4. 事業の実現性と安定性

(1) 安定的な人的体制の構築

- 正社員雇用を基本とし、職員が長期的なキャリアプランを描ける環境を整備します。
- 継続雇用を第一優先: 現在勤務する職員の有給休暇引継ぎや処遇改善を含め、継続雇用を最優先で検討します。
- 豊富な人材プール: 万が一、継続雇用が困難な場合でも、宮崎市内で16ヶ所の放課後児童クラブを運営し、約200名の職員が在籍しているため、迅速な人材確保が可能です。

(2) 厳格な安全・危機管理体制

- 施設長の統括責任: 施設長が安全管理の全責任を負い、マニュアルの周知徹底と緊急時の指揮を執ります。
- 地域連携体制: 宮崎市内の2つの支店、近隣児童クラブと連携し、緊急時の人員や物資の相互サポート体制を構築します。

(3) 健全な財務基盤と適正な経費運用

- 長年にわたる放課後児童クラブの健全な経営実績を基に、指定管理期間中も安定した運営を継続します。
- 管理業務のDX化や経費の「見える化」を通じて、経費を適正に縮減し、質の高いサービスに再投資します。

(4) 障がい者就労支援 障がいを持つ方々を**「こどもの未来を育む大切なパートナー」**と捉え、個々の能力に応じた業務を創出します。

5. 自主事業計画書

- 親子理科実験教室: 親子で理科実験の不思議を体験する教室を夏休み・冬休みに実施します。
- プログラミング教室: パソコンやタブレットを利用した体験型プログラミング教室を半期に1回実施します。
- 漢字能力検定/算数・数学能力検定: 漢字検定協会および算数検定協会の準会場として両施設を開放し、こどもたちが身近な場所で受験できる機会を創出します。
- 生成AI体験イベント: 宮崎市内在住のAIコンサルタントと連携し、生成AIの仕組みを学ぶ体験イベントを半期に1回実施します。
- 親子スナッグゴルフ教室: 女子プロゴルファーを招き、親子で楽しめるスナッグゴルフ教室を年に1回開催します。

- 専門家によるオンライン子育て相談: 看護師や臨床心理士などの専門家による子育て相談を月1回実施し、必要に応じて対応します。